

EPOCH山口大学先端研究基盤拠点形成プロジェクトの全体概要

■ 研究基盤刷新ビジョン2035(2035年に目指す姿)

1. オープンサイエンスによる
新たな価値の創出

AI・ロボットを活用した基盤・先端機器から良質の実験データが次々に生み出され、それらのデータの利活用による新たな価値を創出し続けている

2. 産学公の多様な知が共鳴する場
から生まれる共創の連鎖の拡大

若手研究者と高度専門人材を中心に、産学公の垣根を超えた多様な人材が共鳴する魅力的な場から生まれる共創の連鎖が広がり続けている

3. 我が国の研究基盤の一翼を担う
研究基盤エコシステムの確立

中四国地域の関係機関等とも密接に連携し、我が国の研究基盤の一翼を担うための研究基盤エコシステムを確立している

■ 第1フェーズ(当初3年間)の重点取組

① 統括部局の改革

「研究開発基盤本部」を新設し、全学リソースの最適化と迅速な意思決定によりエビデンスに基づく経営(EBM)を実践する体制をさらに強化する

② X(クロス)ベースの構築

共創棟に基盤・先端機器と高度専門人材を集約したX(クロス)ベースを構築すると同時にデータマネジメント体制を強化する

③ 顧客満足度の最大化

アウトリーチ型営業と顧客関係管理を徹底することにより、顧客満足度を最大化し、民間企業からの受託解析を大幅に拡大する

④ 中四国の大学等との連携構築

やまぐちファシリティネットワークの仕組みと経験を活用して、中四国地域における研究設備・機器と高度専門人材を共有する体制を構築する

■ 第2フェーズ(それ以降)の重点取組

① 共用システムの高度化

これまで積み上げてきた機器利用実績・成果集計システムや顧客関係管理システムにAIを活用して統合し、共用システムを高度化する

② 次世代技術職員の輩出

研究機器インストラクター育成プログラムを発展させた技術職員育成システムを活用し、優秀な技術職員を全国の研究機関に数多く輩出する

③ 財務基盤の強化

機器利用と受託解析等による収入に加え、減価償却引当特定資産等と間接経費の研究基盤への戦略的配分により、強固な財務基盤を創り上げる

④ 中四国ネットワークの高度化

中四国の大学等全体に共用システムが定着し、明確な役割分担のもとで、各大学等が強みを発揮することにより、全国の研究基盤の一翼を担う

■ 実施計画

	1年目	2年目	3年目	4年目以降
①研究基盤・データの整備	機器の戦略的導入・更新	自動化・遠隔化の推進	データパイプライン構築	新たな価値の創出
②X(クロス)ベースの構築	新棟着工	X(クロス)ベースの立ち上げ	X(クロス)ベースの充実	共創の連鎖する場の構築
③エコシステムの確立	研究開発基盤本部設置	アウトリーチ営業の展開	収益拡大モデルの確立	研究基盤エコシステムの確立
④技術職員の質と量の拡大	技術職員の増員	他機関との人事交流	技術職員育成システムの構築	次世代技術職員の輩出